

2019 年度 JBA 公認 B 級審査会

参加審判員 各位



## 今年度の B 級審査結果（基準）について

（一社）福島県バスケットボール協会

審判委員長 芳賀 聡

2019 年度 JBA 公認 B 級審査会に参加された審判員の皆さん大変お疲れさまでした。

先日の県男女選手権大会において最終審査を行いました。今年度は別添のとおり 15 名の方が合格されました。合格された方は本当におめでとうございます。

また、残念ながら不合格だった方には、ぜひ、来年度こそは合格していただきたいと考えております。

以下、今年度の審査会の基準や感じたことについてお伝えします。今後の活動の参考にしてください。

まず、今年度も JBA 公認 B 級審判員選考規定に基づき県大会を主審として任せることが出来る力を有しているかどうかを基本的な基準として、県内の 1 級及び 2 級インストラクターが審査を行いました。

さらに、審判に求められる判定力に説得力を持たせ、プレイヤー、チームはもちろん観客からも納得感が得られるためのプレゼンテーションを意識したレフェリングが出来ているかどうか、また、努力しているかどうかを判断基準に加味しながら審査しました。

これは、現在のトッリーグにおいても重要視されていることですが、判定する（吹く）だけでなく、判定したものを周囲に正確にデリバリー（届ける、伝える）できているかどうか審判の役割、責任としてこれまで以上に求められていることによるものです。

このプレゼンテーションについては、日頃意識して取り組んでいる人とそうでない人との差が歴然としていたと考えております。

今後、B 級、さらには上級を目指す方については、映像などで最新の情報を取り入れながら、また、所属するカテゴリーの枠にとらわれることなく幅広く審判活動に取り組んでいただきたいと考えております。

なお、以下の項目については、今回の審査を通して受講者の共通の課題と感じました。ぜひ、普段の活動においても意識しながら取り組んでいただきたいと思っております。

## 記

① ルール、マニュアル、コーリングガイドラインの理解と実践

② プレゼンテーションの意識

③ POC（ポイント・オブ・コンタクト）の徹底

判定する（吹く）だけでなくファウルの種類を正しく伝える（デリバリーする）意識を持って欲しい。

④ コミュニケーション不足（コーチからの質問、アピールへの対応への工夫）

⑤ ゲーム終了前2分、EOG、EOQへの対応

絶対に間違えることができない時間帯での判定力、決断力を身に付けて欲しい。

⑥ プライマリー・セカンダリー意識の徹底

平気で相手のエリアを吹き込む、リードからストレートラインのプレイを取り上げることがないように意識して欲しい。

⑦ CCM（クルーチーフメンタリティ）、クルーワークの発揮

（副審であっても）主審としてゲームを任せられているという責任感、クルー（チーム）でゲームに臨む意識を持って欲しい。

以上、今後も引き続き、信頼される審判員を目指した積極的な活動を継続して下さい。

**FUKUSHIMA  
REFEREE**